

# 都市空間情報デジタル基盤構築支援事業 説明会

## 令和4年度採択都市 事例発表（10月）

大阪府 柏原市  
都市デザイン部 都市政策課

# I. プロジェクト全体像

## 1. 実施事業・事業規模

### 3D都市モデルを活用した柏原駅東地区まちづくり基本構想の作成

柏原駅東地区は、既に一定の商業や文化的な機能を有し、市の中心地としての役割を担っていますが、近年その活力が低下し、駅前という立地条件を十分に発揮できていない状況であり交通網においても大きな課題があります。

これらの課題を解消するため、3D都市モデルを整備・活用し、柏原駅東口の駅前拠点整備を含む交通網検討や駅前活性化に向けた調査検討を行います。

柏原駅東地区まちづくり基本構想



3D都市モデル





# I. プロジェクト全体像

## 1. 実施事業・事業規模

R4年度実施事業		規模（配分ベース）【千円】	
		事業費	国負担分
(1)	事前調査 ・3D都市モデルの整備範囲や整備内容の検討	300	150
(2)	3D都市モデルの整備・更新事業 ・3D都市モデル整備事業（LOD1）（LOD2） ・3D都市モデルのオープンデータ化	3,500	1,750
(3)	3D都市モデルの活用（ユースケース開発）事業 ・3D都市モデルを活用した駅前まちづくり基本構想の作成	2,200	1,100
計		6,000	3,000

R5年度実施事業		規模（配分ベース）【千円】	
		事業費	国負担分
(1)	3D都市モデルの整備・更新事業 ・3D都市モデル整備事業（LOD2）	2,000	1,000
(2)	3D都市モデルの活用（ユースケース開発）事業 ・3D都市モデルを活用した駅前まちづくり基本構想の作成	3,600	1,800
(3)	3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ ・3D都市モデルのオープンデータ化 ・モデルビューワの構築	400	200
計		6,000	3,000



PLATEAU  
by MLIT

## Ⅱ. 3D都市モデルの整備

### 1. 整備する3D都市モデルデータの概要

#### 整備範囲

LOD1	柏原市全域 (25.33km <sup>2</sup> )
LOD2	駅前空間 (柏原駅東地区) (0.1km <sup>2</sup> )
LOD3	—

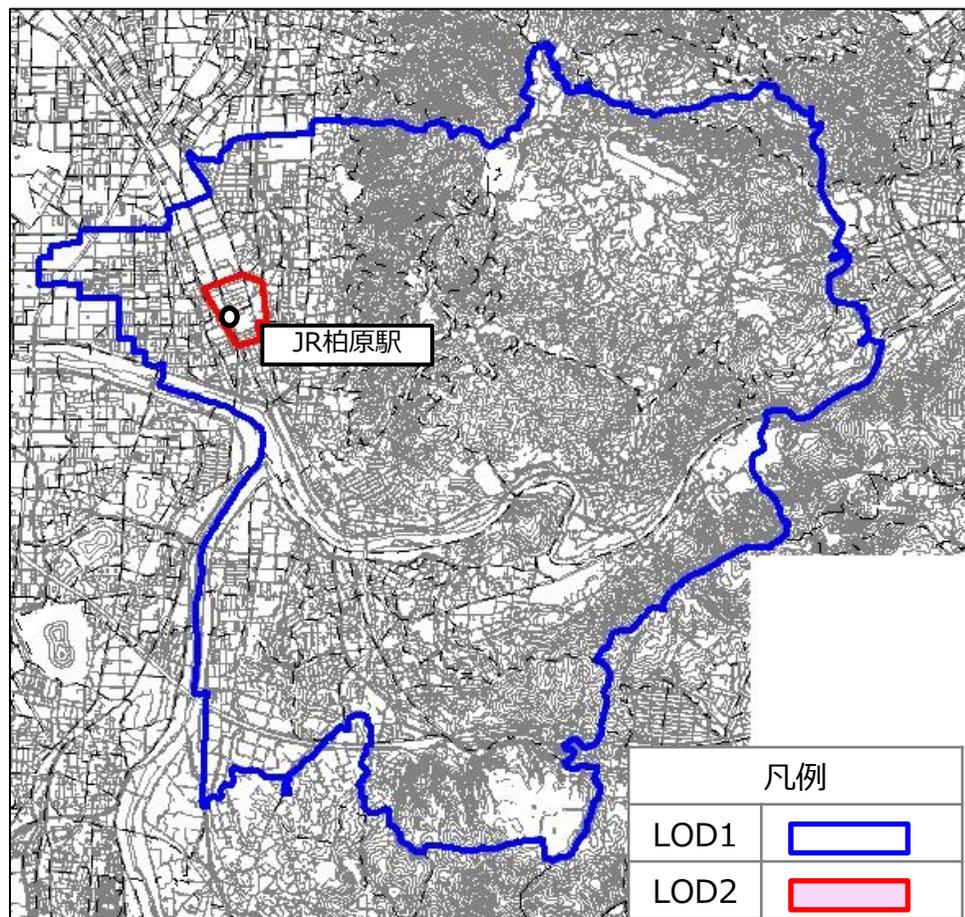
#### 整備地物

LOD1	建築物、道路、都市計画決定情報、土地利用、地形、災害リスク (基本セット)
LOD2	建築物
LOD3	—

#### 整備に活用するデータ

平面図	都市計画基本図 (2021年度)
測量成果	航空写真測量 (2021年度)
属性情報	都市計画基礎調査 (2020年)

#### 整備エリア図





# Ⅲ. 3D都市モデルの活用（ユースケース開発）

## 1. ユースケース開発の概要

1. ユースケース開発のテーマ	都市計画・まちづくり	
2. ユースケース開発の件名	3D都市モデルを活用した駅前現状課題の把握（令和4年度） 3D都市モデルを活用した駅前まちづくり基本構想の作成（令和5年度）	
3. ユースケース開発の概要	<p>■ 社会的課題 JR柏原駅の東側においては、交通面では駅前や商店街のアクセス性や回遊性に課題があり、また住宅の密集や施設の点在など土地利用、施設配置といった面でも課題がある。 そこで令和4年度は地区の現状や課題の整理を行い、令和5年度に駅前としての立地を生かすことができるよう整備方針を検討する。</p> <p>■ ユースケース開発の概要 令和4年度は3D都市モデルに建物利用現況の情報を付与し、土地利用現況図と重ね合わせ、<b>駅前の利用状況を分析</b>することで、基本構想策定の基礎資料として活用する。 令和5年度は3D都市モデル上の建物（地物）を編集、また施設の設計データをビューワに取り込むことで、<b>再整備後の駅前空間を表現</b>し、視覚的にイメージを認識できるようにすることで、施設再配置等の検討にも活用する。 また整備した3D都市モデル等をオープンデータとして公開（プラトーに搭載）する。</p> <p>■ 得られる効果 ワークショップ等でパースとして利用することで地域住民との合意形成やまちづくり基本構想への理解促進を図ることができ、最適な基本構想の策定を図ることができる。</p>	
4. 実施体制・役割分担	実施主体 （委託先等）	アジア航測（モデル整備とUC開発の一式契約）



PLATEAU  
by MLIT

# Ⅲ. 3D都市モデルの活用（ユースケース開発）

## 2. ユースケース活用イメージ

### 出力結果 活用方策

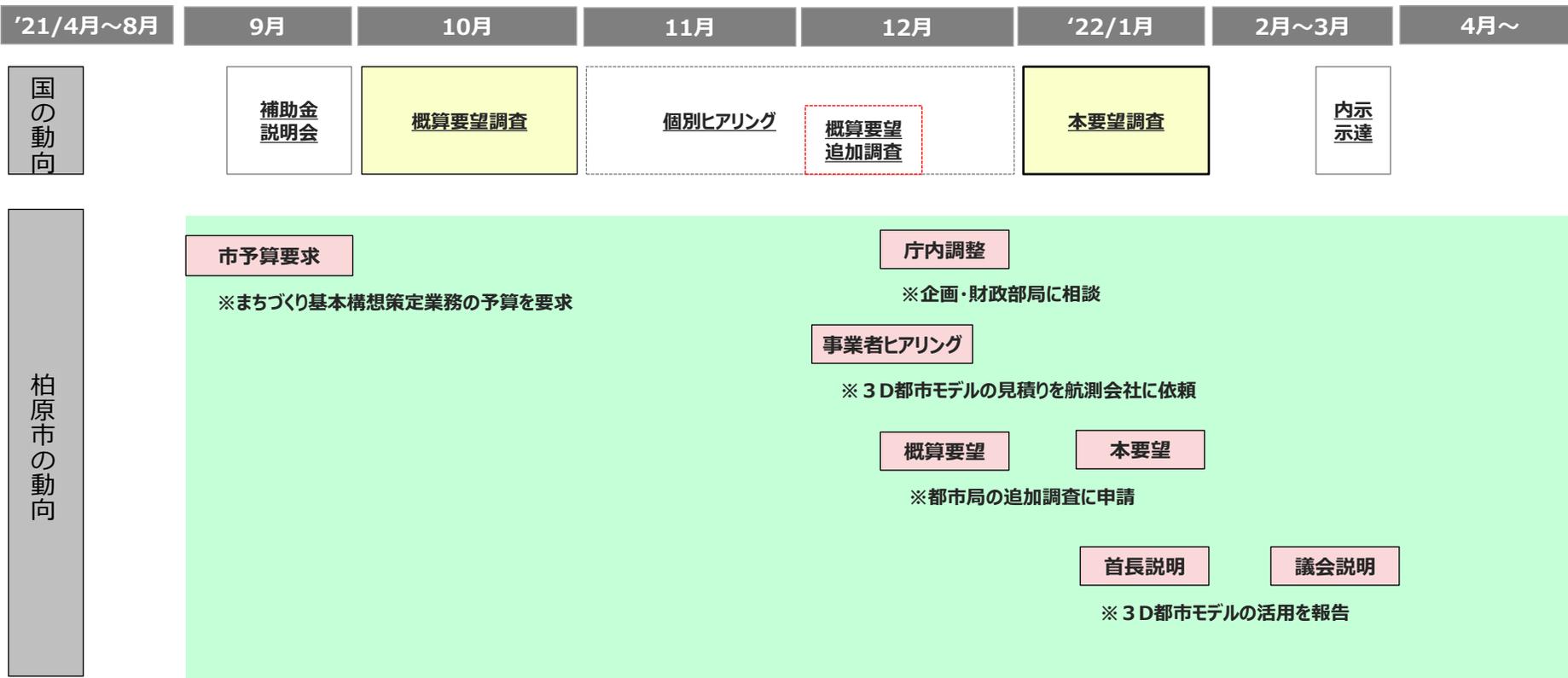
- 3D都市モデルに建物利用現況などの情報を付与し、土地利用現況図と重ね合わせ、駅前の利用状況を分析。
- 3D都市モデル上の建物（地物）を編集、また施設の設計データ（CAD, CityGML）をビューワに取り込むことで再整備後の駅前空間を表現し、あわせて施設再配置等の検討。
- 整備した3D都市モデル等をオープンデータとして公開。また、ワークショップ等でパースとして利用することで地域住民との合意形成やまちづくり基本構想への理解促進のために活用。





PLATEAU  
by MLIT

# IV. R4年度事業化に向けた検討・調整経緯について



- 航測会社に「3D都市モデルを活用できないか（ユースケース）」を相談
- 市長や議員には「住民に事業を分かりやすく説明することができる」ことを説明
- 企画・財政部局には「庁内のデジタル化の推進につながる」「国庫補助を活用できる」ことを説明

# V. R4年度の事業の発注について



- 仕様書は都市局作成の「2022年5月 3D都市モデル整備業務標準発注仕様書 (案)」を参考に作成
- 評価基準に3D都市モデル作成にあたり「市に有益な独自の提案」を加点ポイント
- プロポーザル選定委員会の委員には企画部局や情報部局等の幹部を任命
- プロポーザルの企画提案者は3者 (航測会社)

# VI. R4年度の事業の成果について

'22/4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

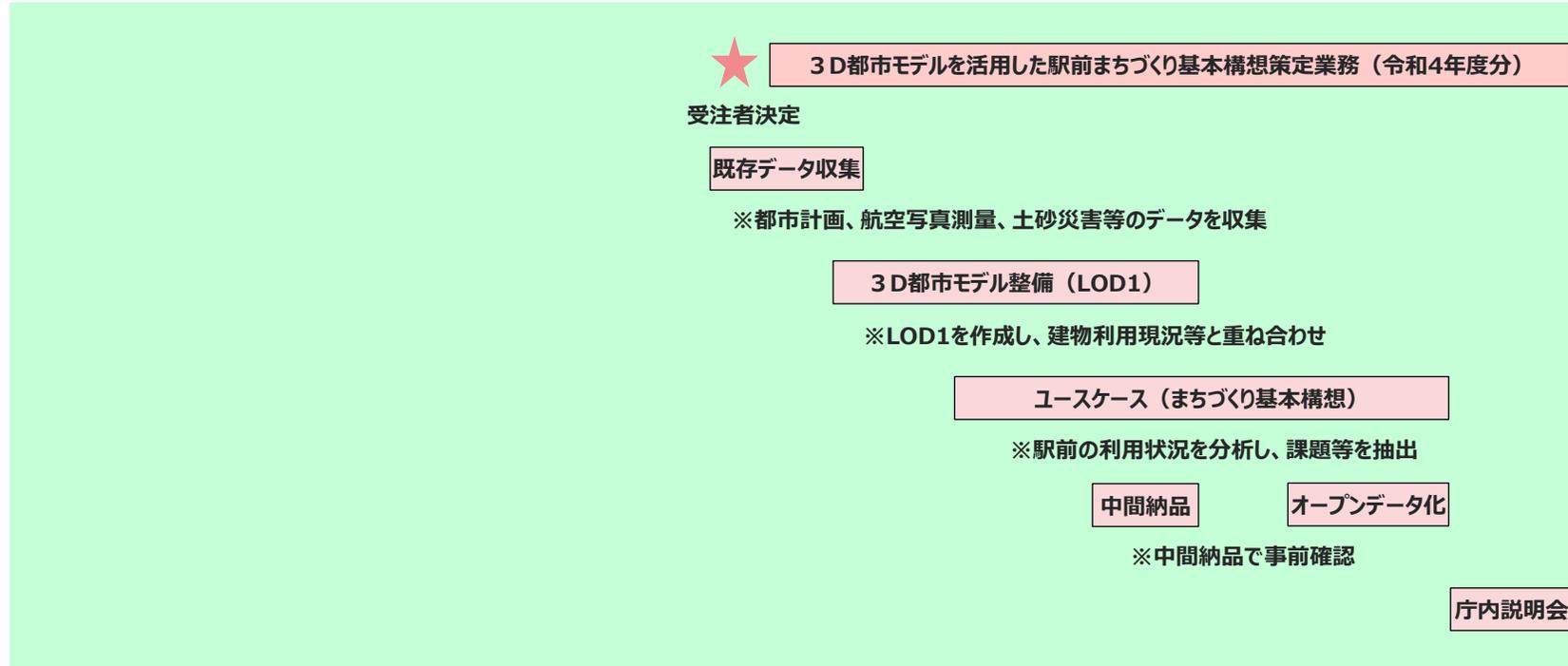
11月

12月

'23/1月

2月

3月



- 航空写真測量などの既存データ（他部署所有）は事前に入手する
- ユースケースに合わせて、3D都市モデルとの重ね合わせを検討（空き家や交通状況等）
- 庁内説明会により、他部署での3D都市モデルの活用を促進